

令和3年度 岡山県立備前緑陽高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

日時：令和3年7月29日（木）13:30～15:30 場所：岡山県立備前緑陽高等学校 工業基礎実習室

出席者：21名

- 1 開会・校長挨拶
- 2 委員紹介
- 3 学校運営協議会について
- 4 会長・副会長の選出
- 5 令和3年度の基本方針について（1）令和3年度の基本方針について（2）本校の魅力発信について
- 6 協議

・街に魅力がないと生徒が来ない。校外活動も日生の方には行ったが、街の中心部へは行ってない。備前市中心部の活性化が急務であり、新庁舎も新築したので、シンボリックな建物が必要である。図書館だけでなく、高校生が必要とされている工業、福祉など卒業後の進路の保障ができれば良いのではと考え、魅力あるまちづくりを期待している。

・日生漁港依頼のバツカンなど、外部からの依頼や、先生、学校の発信からスタートしているが、10年先には生徒からの発信ができればおもしろいのではないかと。学校の中から発信できれば大きな魅力になる。

・緑陽高は通いやすく、備前中からも近い。放課後にボランティアなど参加できる時間が作れる。緑陽周辺での部活でのゴミ拾いなどを子どもが見て引き継げれば良い。入ってから進路選択ができるのが魅力で、もっと発信すれば良い。子どもたちの口こみが大きな影響があるので、子どもたちを主役にして、発信させれば魅力ある学校となるだろう。本校卒業生の保護者としては、和気町からは通学が不便である。放課後集う場所がなく困っていたと当時娘から聞いた。学校の魅力化と併せて商店街の魅力化が大事では。

・情報発信については様々な場面において大事である。備前市の良さを発信するにあたり、高校の力を借りる、関わる、備前市で定住就職できる、そんな街づくりが必要。

・企業訪問について、産業フェアに参加して資料を渡すだけでなく、生徒が記者になって会社に入っていけば良い。生徒は自分の意見をしっかり持っている人が多い。考え方について、時代が変わり、ベテランの仕事も新人にやらせている。例えば、シャッター街はシャッターが閉まっていることで車が来ないので移住者が増えた。自分から企画して、おおいに仕掛けてほしい。

・子どもたちが楽しいと思える、生徒を主人公にする活動を増やす。日生中学校の例で制服を変えた時に、その端切れでポーチやスマホケースを作った。これは中学生の発想でNHKでも放送された。生徒の主体的な活動はメディアが取材したい内容となる。

・今は子どもたちと高校生が連携する機会が少ないが、子どもたちにとって高校生はとても良いモデルとなり、成長して憧れのお兄さんお姉さんがいる学校に来たい、となる。また保育士を目指す高校生には、職員が大切に子供を育てているのを見て、一生懸命な姿を感じて欲しい。将来、この街にもう1回帰って、仕事をしてみようかなという原体験になる。園を活用してほしい。

・海や、山が学べる学科をつくってはどうか。びぜんのまち活性化プロジェクトをすすめているが、ゼロから作り出すより他校の成功例を真似ていき、緑陽にあった形にしていけばよい。特産品のいちじくを子どもと製造し、商店街で販売するなど、常に先生、生徒で考えを出し、備前市を活性化し、厳しい時代を生き抜くことができる生徒の育成を期待している。

・高校の近くに小学校があるのはとても良い。部活動の生徒は挨拶してくれる。ゴミ拾いの姿も将来を描きやすいお手本になっているのではないかと。コロナ禍のなかではあるが、交流についても高校生の力を借りたい。

・学校要覧は特色が事務的な文章に終わっている。中学生は1年生からアピールしていかないといけない。和気と邑久と生徒の取り合っていないので継続的に訪問しないと、3年の時点では遅い。備前のこどもが緑陽を選ばない理由として、備前中の生徒は西に行きたい傾向があり、備前の保護者、先生と話す必要がある。受験も私立を受ける人が多く、また三石などからの受験者が少ない。備前市からバス路線を作るなど、備前市唯一の学校なので全力で応援する。いろんなネットワークを使い県教委に話すよいのでは。

・消防署に勤めており、以前は低かった倍率が今は高くなった要因として、SNSに力を入れていて、企業とのコラボが増えたことも影響があったのかもしれない。職員の努力はあるが、発信力があれば、備前市の企業、地域に見てもらえば協働が増える。連携の時代なので機会を逃さずに発信してほしい。城東台出身で東岡岡でターンして通学が不便だった。スクールバスを設置してほしい。

・地域とのつながり、人と人との繋がりといい意見が多かった。すぐに取り入れることができるものもあるかもしれないが、継続性をキーワードに進めていければ良い。地の利を生かしてください。

7 閉会